

ブタプラセンタエキスのロコモティブ症候群に対する 有用性の検討

三村朋也、舟生博和、鈴木礼以、石原孝一、花田敬三

株式会社日本生物製剤

【目的】

加齢に伴う筋量の減少と筋力の低下は、運動障害、身体的障害、自立の喪失等につながり、高齢者の日常生活動作（ADL）や生活の質（QOL）は大きく低下する。サルコペニアは老年症候群の重要な問題の一つとなっている。サルコペニアの改善には運動指導、栄養指導が効果的であるとされているが、運動障害を抱える人にとって運動は困難であり、栄養摂取による筋量の確保や転倒予防がサルコペニア症状の改善に有用である。

プラセンタエキス（胎盤抽出物）はモデルマウスを用いた実験によって、筋萎縮と線維化の抑制効果が認められ、サルコペニアの改善に有用である可能性が期待されている。プラセンタエキス経口摂取の運動器機能への影響を、ロコモティブ症候群（運動器症候群）診断ツールの一つである「ロコモ 25」を用いて調査した。

【方法】

担当医師がサルコペニアを疑った被験者は、調査について説明を受け、ブタプラセンタエキスを含有するゼリー（JBP プラセンタゼリーピュア：株式会社日本生物製剤）を 1 日 3 包（ブタプラセンタエキ

ス 3 g）、2 週間経口摂取し、摂取前後で「ロコモ 25」に回答した。「ロコモ 25」は身体の状態・生活状況に関する 25 の質問からなり、各質問に「なし」0 点、「少し」1 点、「中程度」2 点、「かなり」3 点、「ひどい」4 点の 5 段階で回答する。摂取前後のスコアの合計を Wilcoxon の符号順位検定により統計解析した。なお、本調査は日本補完代替医療学会倫理審査委員会の承認を得た。

【結果】

複数の医療機関に調査票を合計 95 枚配付した。そのうち 81 名（46～93 歳、平均年齢 70.5 歳）から有効回答を得た。総スコアの平均値と標準誤差は摂取前 23.8 ± 2.3 から摂取後 17.5 ± 1.9 と有意に改善した ($p < 0.001$)。また、ロコモ 25 を構成する 5 つのドメイン（痛み、屋内動作、身の回り、活動・参加、不安）の全てのスコアが摂取後有意に改善した ($p < 0.001$)。

【結論】

プラセンタエキス 3 g の経口摂取を 2 週間継続することは、運動器機能を改善し、自立した生活の維持・改善に有用である可能性が示された。